

## 育ちの芽



副園長 奥村 綾

新しい年が明け、早1ヶ月が過ぎました。幼稚園では3学期がスタートし、戸外では子ども達の元気な声が響き、『たこあげ』『コマ回し』『福笑い』等、のお正月ならではの遊びが盛り上がりました。

1月中旬頃から、胃腸炎等の感染症により欠席者が増えたり、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、心配や不安な状況は続いています。園で過ごす子ども達は、この時期、継続してきた遊びに夢中になったり、友達との関係が深まったりと、コロナ禍においても変わらない育ちを見せてくれています。

どの年齢の子ども達も、今のクラスで過ごす日が残り2ヶ月となりました。まだまだ、不安な状況は続きますが、感染対策に留意しながらも、様々な経験ができるよう保育を継続・充実していきたいと思えます。

### ～うきうきタイム～

この冬は、寒い日が多く、園庭の水溜りに氷ができる日が何日かありました。氷が割れないようにそーっと手で持ち上げ「大きいのとれた～！」と大喜びする子、スコップを使ってバリバリと細かく割る子、フライパンに集め料理やチョコレートに見立てる子等さまざまな様子の子供達でした。朝、園庭のテーブルの上にたくさん集めておいた氷が、昼に見に行くとなくなっていて「先生氷がなくなっているよ～」と、不思議そうに伝えに来てくれる年少児もいました。冬の自然に触れ合う楽しい体験ができました。

この時期になると、自分達で遊びを展開する姿が、あちらこちらで見られます。

ドッジボールをしたい年長児は、「先生コート書いて！」と、自分達でチームを決め、「顔面はセーフやで！」「ワンバンもセーフ！」「みんなわかった？！」とルールを再確認してから始まり、勝敗がつくまで自分達で行うことができます。もちろん、スムーズに最後までできる日の方が少なく、必ずと言っていいほど揉め事は起こります。自分がしゃがんだために顔にボールが当たった時も、「顔面やからセーフ！」と言ったり、よそ見をしていて当たった時は、「今のはなし！」と言ったり、都合のいいようにルールが変わることもあります。仲裁に入る子、慰める子、進行する子等それぞれが役割をこなし、折り合いをつけながら行う姿が見られます。

鬼ごっこでは、『氷鬼』『増え鬼』『変わり鬼』『色鬼』等、様々なバージョンがあり、丸くなって足(靴)を前に出し、『鬼決め』をして自分達で鬼を決めます。

「先生ここに牢屋書いて！人数多いから大きめの丸いやつ！」と書く場所や大きさを指定する年長児もいます。中には、鬼になると泣いてやめる子もいて、なかなかスムーズに鬼ごっこも進んでいきませんが、毎日毎日繰り返し、走り回って遊んでいます。

リレーのトラックを書くと、多くの子ども達が2列になって順番に並び、バトンを次の人、次の人へどんどん繋いでいきます。コーナーの内を通った子には、「ずるーい！」と注意したり、バトンを投げて渡している子には、「投げたらあかん」と言ったり、ルールを守ることを伝え合い、異年齢のエンドレスリレーが続きます。

### ～豆まき～

今年は、「鬼は外」「福は内」と、心の中や口パクで豆を投げる『サイレント豆まき』をしました。2人の先生がお面をつけて、みんなで穏やかな豆まきをしていると……。どこからか太鼓の音が聴こえ、前から後ろから、それはそれは恐ろしい鬼達がやってきました。泣いて先生にしがみつく子、無言で豆を投げ続ける子、果敢に立ち向かっていく子等、いろいろな様子の子ども達でしたが、豆まきが終わって鬼が去っていくと、自分達で鬼を退治したことに安堵の表情を見せてくれました。中には、いつまでも泣いている子に

「泣いてたらまた来るで。もう大丈夫！な！鬼どっか行ったやろ！もう来ないから大丈夫！」と励ましてあげたり、「全然怖くなかったしー。」「あれ〇〇先生やしー。」と冷静な子ども達もいました。

### ～公開保育～

クラスの子ども達の現在の様子や姿、コーナー遊びの内容等、他園の先生方からのご意見を通して、自分達だけではわからない自園の良さや、課題を見つけ、保育の更なる質の向上を目指すため、公開保育に向けて11月から段階を踏んで準備を進めてきました。

新型コロナウイルス感染拡大により中止となり、貴重な機会がなくなり非常に残念な思いですが、園内において研修を行い、取り組んできたことを共有していきたいと考えています。

### ～嬉しいお便り～

昨年度幼稚園を卒園した1年生の親子から、小学校生活の近況報告という事でお便りが届きました。「いつもがんばっているよ」と書いた手紙と、

『学校生活に慣れるまでは、甘えたり気が散ったりしたけれど、感情のコントロールや切り替えを意識できるようになったことや、運動会での様子』等を、手作りの“通信”という形で知らせていただきました。

『幼稚園で教えてもらったこと、認めてもらえたこと、大切にしてもらえたこと、様々な経験が大人への信頼感や集団生活への慣れ、今の成長に繋がっているのだと思います。』

という言葉をいただき、幼稚園での関わりや経験が、小学校生活で活かされている事を知り、とても嬉しい気持ちになりました。